

報道関係者各位

2017年6月21日

業務の効率化によるスタッフへの負荷軽減とサービス向上を目指して デイサービス施設で人型ロボット「Pepper」の試験導入を開始

大東建託株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:熊切直美)の100%出資子会社であるケアパートナー株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:白井孝和)は、業務の効率化によるスタッフへの負荷軽減と、サービス向上を目指して、東京都練馬区の「ケアパートナー大泉」にて、2017年6月26日より、ソフトバンクロボティクスの人型ロボット「Pepper(ペッパー)」の試験導入を開始します。主に4種の実地試験を通して動作の正確性・確実性を高め、3年以内に全国28都道府県77ヶ所のデイサービス施設での展開を目指します。

■データ処理の自動化により、スタッフの負荷を軽減

ケアパートナーのデイサービス施設では、介護記録をはじめ、測定した血圧や体温などのデータをすべてPCで管理しています。しかし、施設の部屋で測定をした後、別室に移動してパソコンに入力・チェック等を行う現在の方式では、どうしても時間と手間がかかっていました。

それをデジタル計測機器を用いてPepperと連動させることで、測定した値はそのままデータ化され、PC作業などの間接業務を自動化することで、介護スタッフの負担軽減を図ります。

■自動化によって生まれた余裕で、サービスの向上へ

データ処理を含め、以下4つの業務をペッパーが自動化します。ここで生まれた時間的余裕によって、介護スタッフは、よりお客様に寄り添ったサービスが可能となり、一層のサービス向上につなげられるものと考えています。

■4種の利用シーンを想定

デイサービス施設でのPepperの活用シーンとしては、以下の4種を想定しています。いずれもPepperが個人の顔を識別し個別に対応します。従来のPepperの顔認証は家庭での利用事例が多く、10人程度が一般的な実用範囲でした。しかし、今回のケアパートナーでの導入にあたり、1,000人まで認証可能な顔認証システムを搭載しています。

①お出迎え

「〇〇さん、こんにちは」と挨拶しお出迎えします。昼食メニューが選択されると情報はすぐに調理スタッフへ送信され、メニューや数、食事制限情報等を確認することができます。

②お見送り

「〇〇さん、さようなら」と挨拶しお見送りをします。利用者の発話内容を自然言語解析し、自然なコミュニケーションを行います。利用者の声は記録サーバに蓄積されます。

③健康チェック

計器と連動させ、血圧・体温・体重測定の補助を行います。測定したデータは表情レベルを付加して自動印字され、併行して記録サーバに記録されます。(最終的に、スタッフが確認)

④雑談

利用者と自然な会話を行います。利用者の声は記録サーバに蓄積され、利用者の満足度向上・業務の改善に役立てることができます。



ソフトバンクロボティクスの人型ロボットPepper
(ケアパートナー大泉にて)
※ソフトバンクロボティクスのPepperを活用し同社が独自に実施しています

＜本件に関するお問い合わせ＞

大東建託株式会社 経営企画室 出澤・和賀 TEL:03-6718-9174